

事務事業マネージメントシート

作成日 平成30年 05月 07日

事務事業名	プラネタリウム公開事業				担当	教育委員会 科学教育センター						
政策名	B 学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり				増補版施策名							
施策名	1 生涯学習の推進				<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業							
関連個別計画						事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ					
法令根拠	真岡市科学教育センターの設置、管理及び使用条例						<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 平成5年度~)					
予算科目	1.一般会計	10.教育費	4.社会教育費	10.科学教育センター費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度~ 年度)							
事業概要	·科学教育センターは実験室3室、プラネタリウム、各種実験観察器具を備え、市内の小学3年から中学3年までの全員に、学校教育の一環として理科の観察実験、天体の学習指導を集中的に実施する施設である。このうちプラネタリウムについては、生涯学習の一環として、毎週土曜日、夏休み等の長期休業中の午前11時と午後1時30分の1日2回、おとな<高校生以上>>200円、子ども<4歳~中学生>>100円で一般住民に公開している。年数回、夜間特別公開を実施し、平日午後は幼稚園等を対象とした団体観覧の受け入れ、また県民の日協賛事業として6月に2回のプラネタリウム無料公開を実施している。 ·プラネタリウムの概要は、直径18mドーム式、定員165人、プラネタリウム投影機及びデジタル投影用プロジェクターほか補助投影機、音響機器である。											

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動) 29年度実績 ・毎週土曜日、夏休みにプラネタリウム投影(当日の星座解説と映像番組)を実施した。 ・平日午後に団体観覧を受け入れた。 ・年4回の夜間特別公開を実施した。 ・県民の日協賛事業として2回の無料公開を実施した。 ・事業内容のチラシ配布(市内幼保小)や市広報紙、科学教育センターホームページ等により広報した。 ・年3回番組を替えて公開した。	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移						
	名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
ア : 公開回数(特別公開、県民の日、団体を含む)	回	109	101	103	91	100	
イ : 観覧者数(特別公開、県民の日、団体を含む)	人	4,589	3,461	3,973	4,031	4,100	
ウ : 観覧料	千円	411	365	372	359	400	
エ : 特別公開回数	回	6	3	4	4	7	
オ : 特別公開観覧者数	人	390	361	273	256	400	
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 市民	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移						
ア : 市民の数	人	80,698	80,590	79,422	79,542	79,414	
イ : ウ : エ : オ :							
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 身近な天体現象に触れることにより、天体への関心を起こし、自然科学へ興味を向ける。	⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移						
ア : 定員充足率	%	25.5	20.8	23.4	26.8	27.0	
イ : ウ : エ : オ :							
④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 市民に学習機会を提供することにより、生涯にわたりて学習テーマを持ち、学習してもらう。	⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移						
ア : 学習テーマを持って日連日取り組んでいる市民の割合		25.2	30.1	29.1	27.3	31.0	
イ : 生涯学習に関する講座参加延べ人数		12,963	13,097	13,954			
ウ : エ : オ :							

(2) 総事業費の推移		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
投 入 量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	財源内訳	県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	411	365	372	359
		一般財源	千円	993	607	628	721
		事業費計(A)	千円	1,404	972	1,000	1,080
人 件 費	正規職員従事人數	人		3	3	3	3
	延べ業務時間	時間		1,272	1,272	1,272	1,272
	人件費計(B)	千円		5,369	5,330	5,283	5,279
トータルコスト(A)+(B)		千円		6,773	6,302	6,283	6,359

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	平成5年の科学教育センター開所から、プラネタリウムは、生涯学習の一環として一般公開を開始した。
①この事務事業を開始したきっかけは何か? いつごろどんな経緯で開始されたのか?	・平成30年度は、7月に15年ぶりの火星の大接近をはじめとして、惑星を観察するのに適した年であり、天体現象への興味関心が高まっている。 ・デジタル投影用プロジェクターが、前方投影式からドーム全体投影式に変わり、臨場感ある投影で、観覧者の年齢層も少しずつ広がっている。
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	・プラネタリウム観覧者から、いろいろな種類の投影番組を公開してほしいという要望がある。
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・生涯学習の一環として、プラネタリウム番組を一般公開している。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・施設を活用し、市民に対して実施する生涯学習事業である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある ・市民を対象とした生涯学習の一環事業である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 観覧者数を増やす。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない ・近隣にプラネタリウム施設がないため、自然科学に触れ、興味を持つ機会が減少する。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・投影にかかる最小限の経費である。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・投影に必要な最少の人員配置である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・観覧料として、おとな（高校生以上）200円、こども（4歳～中学生）100円を徴収している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画）	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し（ <input type="checkbox"/> ：目的妥当性 <input type="checkbox"/> ：有効性 <input type="checkbox"/> ：効率性 <input type="checkbox"/> ：公平性） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動や周知方法及びプラネタリウム番組の選定の工夫 ・近隣学校、近隣施設へのチラシやポスターの配布 ・プラネタリウム観覧者へのアンケートの実施 	

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客觀性と出来具合	<input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客觀性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客觀的と言える	(5) 改革・改善による期待成果			
(2) 2次評価者としての評価結果	<table border="1"> <tr> <td>①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> <td>②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> <td>④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table>		①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり				
③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり				
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（從来通りで特に改革改善をしない） 				
(4) その他2次評価会議で指摘された事項					